



© UNICEF/UN0885359/Meerzad

ダイクンディ州にある病院で、栄養治療食を口にする生後9カ月のホダグドちゃん。生後2カ月で栄養不良と診断され、継続的に治療を受けている(アフガニスタン、2026年6月10日撮影)

特集／世界の飢餓、3年連続で改善するも 依然約6億4,500万人が飢餓状態

ユニセフ(国連児童基金)など5つの国連機関が7月に発表した最新の報告書「世界の食料安全保障と栄養の現状」によると、2025年には世界の飢餓が3年連続で減少し、前進が可能であることが示された一方で、その進展は未だ不安定であり、地域による偏りがあると同時に、2030年までに持続可能な開発目標(SDGs)を達成するにはなお不十分な状態だと指摘されています。

報告書によると、2025年には世界人口の7.8%が飢餓に直面していたと推計されており、これは2024年の8.1%、2022年の8.6%から減少しており、緩やかではあるものの持続的な改善が確認されました。人数ベースでは、2025年は約6億4,500万人が飢餓状態にあり、2024年と比較して約1,400万人、2022年と比較して4,300万人減少しました。

世界全体では進展が見られるものの、地域によって状況には大きな差があります。アジアとラテンアメリカ・カリブ海地域では、近年着実な改善が続いていますが、対照的に、アフリカでは現在、約3億900万人が飢餓状態にあり、アジアの2億9,200万人を上回っています。

そのような状況の中、2025年度の日本のカロリーベースの食料自給率は前年度から1ポイント低下して37%となり、過去最低を記録しました。

SDGsでは、2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにすることを目標に掲げています。この目標を実現していくため、引き続き多くの方のご支援とご協力をお願いします。

緊急募金活動情報

2026年9月現在、下記の緊急募金を行っております。

- ・ベネズエラ地震
- ・ガザ人道危機
- ・人道危機(レバノン・スーダン・アフガニスタン・シリア)
- ・ウクライナ
- ・自然災害(ネパール、アフガニスタン地震、気候災害)
- ・アフリカ栄養危機

詳しくは、当協会ホームページをご覧ください。

ガーナ
レポート

Meet Ghana

ガーナ共和国のことをもっと知るための 「ガーナ料理の試食と交流のつどい」を開催しました。

6月22日、パルシステム神奈川新横浜本部 2階会議室において、「ガーナ料理の試食と交流のつどい」を開催し、25名の方にご参加いただきました。

神奈川県ユニセフ協会では、2024年よりガーナ共和国の児童婚をなくす指定募金に取り組んでおり、今年で3年目となります。ガーナ料理を試食し交流することで、募金先であるガーナのことをより深く知っていただくために今回のつどいを開催しました。

試食品の調理は、駐日ガーナ大使館ガバ参事官のご紹介により、茨城県古河市でアフリカ料理店を営んでいるガーナ出身のナオミさんとシンディさんをお願いしました。お二人には試食の4時間前からご準備をいただき、「ジョロフライス」、「牛肉のスープ」、「完熟バナナとサツマイモのフライ」の3品を作ってくださいました。試食品は参加者から大好評で、「ボリューム満点の試食は、スパイシーでエスニックながら日本人も食べやすい味だと感じました」との感想や、「ガーナについて

学ぶだけでなく、実際に現地の料理を食べることで、その文化や人々の暮らしをより身近に感じることができました」などの感想をいただきました。

また、試食の前後には、当協会の指定募金の取り組みやガーナの紹介、ガーナクイズなどで、ガーナについても楽しく学ぶことができました。

今回のつどいは、ボランティア交流会としても位置付けていたため、当協会のボランティアと他の参加者との交流も進みました。



左：運転手のシャヒドさん、中央：ナオミさん、右：シンディさん



会場のようす



左：完熟バナナとサツマイモのフライ、中央：ジョロフライス、右：牛肉のスープ



会場のようす



参加者からは以下の感想をいただきました（抜粋）。

- ・今回の交流会は募金先の国のことを知るとても良い機会になりました。学んだことを家族や知人に話したくなりました。ありがとうございました。
- ・初めてのガーナ料理はもりだくさんでとてもおいしくいただきました。準備してくださった三人の方々の想いを受け、残りの募金期間もさらなる協力を呼び掛けていきたいと思います。
- ・ガーナ仕様のランチョンマットや音楽もご準備いただき、現地の雰囲気を感じられるとても良い空間でした。ありがとうございました。

支援先であるユニセフ・ガーナ事務所より「第一次報告書」が届きました。

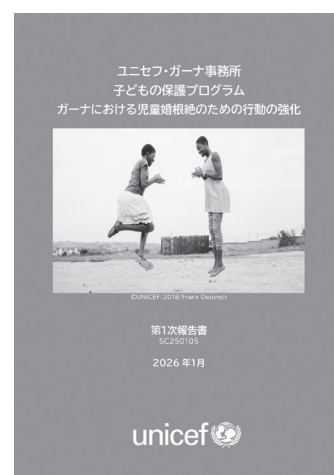
「第一次報告書」の要旨を紹介します。

- ・ガーナにおける児童婚の割合は、2022年には16.1%となりました。以前より前進していますが、現状でも6人にひとりの若い女性が大人になる前に結婚させられています。
- ・今回の指定募金をもとにした支援プログラムでは、児童婚の比率が高い3つの州を対象に、児童婚をなくすための国家的な取り組みを加速させることを目的としています。
- ・ご支援により、2つの取り組みの対象範囲と規模を拡大することが可能となりました。

ひとつは、この1年で思春期の女の子1,230名を対象に、安全なスペースでライフスキルや生殖健康に関する教育を提供できるようになりました（PASSプログラム）。このプログラムにより様々な知識やスキルを身につけるとともに、自身の権利に関する意識を高め、必要なサービスにつなげることが期待されています。

ふたつは、同じくこの1年で7,200名の親や保護者、伝統的・宗教的指導者やコミュニティの住民が、子どもの保護を目的に双方向的な対話に取り組んでいます。これにより、思春期の女子の保護に対する積極的な態度や実践が促進されています。

- ・ユニセフ・ガーナ事務所は、神奈川県ユニセフ協会を通じたあたたかいご支援に対し、心からの御礼を申し上げます。



あなたの寄付でユニセフの活動をサポートしませんか？

ガーナ指定募金

神奈川県ユニセフ協会では、2024年1月より2028年までの5年間、第5次指定募金として「児童婚を終わらせるためのガーナ指定募金」に取り組みます。

この募金では、児童婚のリスクが高いガーナ北部・東部地域3州で①思春期の女の子たち6,000人へ「安全な空間と能力強化のためのセッション」の提供②思春期の女の子を支援し、男女平等な環境づくりのための「コミュニティへの研修」の実施（30,000人）を支援します。

みなさまのあたたかいご支援をお願いします。

口座名義 公益財団法人日本ユニセフ協会
郵便振込口座番号 00190-5-31000
備考 通信欄に「12254ガーナ子ども保護」と「K1-140」（神奈川県ユニセフ協会コード）を記入して下さい。



©UNICEF/Geoffrey Buta/2020

第17回

ユニセフ・ラブウォーク in かわさき

日時：5月17日（日）10：00～12：30

開催場所：生田緑地（川崎市）

主催：神奈川県ユニセフ協会

後援：川崎市、川崎市教育委員会、神奈川県

参加人数：183名／募金額：69,804円

当日は快晴のもと、新緑の生田緑地でウォーキング、各種の体験を楽しんでもらうことができました。最高気温30℃と暑いなかでしたが、体調を崩される方もおらず無事終了することができました。



中央広場の客車横スペースで受付作業とユニセフ紹介と準備体操（ストレッチ）の紹介パネル展示を行いました。また、スタート付近の中央広場では「芝生deヨガ体験」を3回、ゴール地点でも1回開催。ガールスカウトの皆さんを中心に多くの皆さんに参加いただきました。

メタセコイア林入口では、コースの道案内も兼ねて記念撮影コーナーを設置しました。



枡形山ゴール付近では、「SDGsストラックアウトゲーム」や「水がめ運び体験」、「紙しばい」、「顔はめパネル」を開催しました。さらに、今年は、「モルック体験」と「紙工作」のコーナーを設けました。どの企画も子どもたちに楽しく学んでいただき、親子連れの参加者に好評でした。

協力／協賛：生田あやめ会、多摩応急手当普及会、多摩区ウォーキング推進委員会、生田緑地整備事務所、生田緑地東口ビジターセンター、伊藤ハム株式会社（「パプスティック（あらびき）」のご提供）、生活協同組合パルシステム神奈川（「キャロットさんミニ」のご提供）、生活協同組合ユーコープ（「CO・OPドリンクゼリー」のご提供）、東京サラヤ株式会社（「匠の塩飴」のご提供）、株式会社ロッテ（「XYLITOL 噛むトレフーセンガム」のご提供）【順不同】

1 Day for UNICEF 「国の違いをこえて共に生きること」を開催しました。



開催日：2026年8月29日（土）13：00～16：00

会場：横浜市スポーツ医科学センター 中研修室・小アリーナ②

参加者：38名（事務局、ボランティア含む）

募金額：5,462円

協力：公益財団法人横浜市国際交流協会・横浜市国際学生会館、東海大学国際関係学部学生団体SHIP、ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボ

今回の「1 Day for UNICEF」は、国の違いをこえて共に生きることをテーマに、日本で暮らす海外の留学生や市民の方と若い世代の日本人と一緒に考え交流することを目的に開催しました。あわせて、当協会のボランティアが実行委員会を立ち上げ、企画から取り組める参加型の企画とし、特に若い世代の参加が広がることをめざしました。

はじめに、神奈川県ユニセフ協会の活動を紹介した後、前半の部として、参加者が6つのグループに分かれて、「国の違いをこえて共に生きること」をテーマに11を超える国と地域の方々との交流を行いました。コメンテーターを東海大学国際関係学部教授の荒木圭子先生にお願いし、ファシリテーターを同じく東海大学国際関係学部学生団体SHIPのメンバーにお願いして進めました。「みんなの名前を覚える」・「日本に来てびっくりしたこと」など9つのミッションを達成することを通じてアイスブレイクを行った後、「お互いの国の共通点と違うところ」、「日本に来てポジティブなこと・ネガティブなこと」について交流を行いました。「国や文化の違いを肌で知ることができました」などの感想が出されていました。



後半は、グループ対抗のボッチャ大会で盛り上がりしました。ボッチャは、年齢、性別、障害のあるなしに関わらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツであり、言葉の壁を乗り越えてさらに交流が深まりました。



当日の運営進行はボランティアが担当しました。

今回の企画にあたっては、公益財団法人横浜市国際交流協会・横浜市国際学生会館より留学生10人をゲストとしてお招きしました。ご参加いただきありがとうございました。また、ボッチャの進行にあたっては、ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボの皆さんにご協力いただきました。

活動報告

ピンクシャツデー 2026in 神奈川

日時：2026年2月25日（水）13：00～18：00
会場：新都市プラザ（横浜駅東口地下2階）
『理解を深めよう 子どもの権利』をテーマに、子どもの権利条約 第1～40条を一覧にしたポスターを展示しました。

「ユニセフ・夏休み子どもワークショップ」

日時：2026年8月5日（水）13：00～14：30
会場：平塚市四之宮公民館
参加人数：38人（高校生インターン含む）
共催：平塚市立四之宮公民館・八幡公民館
小学生とその保護者を参加対象として、世界の子どもの現状や外国コインの集め方、募金の使われ方を学習した後、外国コイン仕分けボランティアを体験してもらいました。当日の運営は、鎌倉湘南インターンシップの高校生2名と当協会の学生ボランティアが行いました。子どもたちからは『楽しかった』『来年も参加したい』との声があり、保護者からも『ユニセフについてのお話もとても分かりやすく有意義でした』と感想が寄せられました。



AIDS文化フォーラムin 横浜

日時：2026年8月7日（金）～9日（日）10：00～17：30
会場：かながわ県民センター
主催：AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
AIDS文化フォーラムin横浜は、1994年に横浜で開催された「国際エイズ会議」をきっかけに始まり今年で33回目となります。当協会では、エイズに関するユニセフの取り組みをパネルにして展示を行いました。



「シネマアース」チャリティ上映会

日時：2026年3月28日（土）
会場：地球市民かながわプラザ2階プラザホール
主催：シネマアース
募金額：12,910円

シネマアースは「映画でつなぐ、地球の子どもたち」をテーマに立ち上げられた自主上映の会です。今回は映画「ザ・ウォーク」を通して、世界の子どもの理解と支援につなげたいとの趣旨で開催され、当協会が後援を行いました。



湘南青少年環境会議in 逗子2026

日時：2026年3月28日（土）
会場：聖和学院中学校高等学校
主催：逗子ロータリークラブ
募金額：5,131円

この会議では、青少年が身近なところから環境問題に対する意見や要望を発信し、その場で環境省に提出する取り組みを行っており、当協会が後援を行い、当日パネル展示を行いました。



檜ユニセフチャリティコンサート感謝祭典

日時：2026年6月7日（日）
会場：檜チャリティコンサートホール
主催：宗教法人 吉祥院 檜チャリティコンサートホール
後援：神奈川県ユニセフ協会
募金額：129,351円（ウクライナ緊急募金）

吉祥公園墓地30周年・檜コンサートホール20周年を記念したユニセフチャリティコンサートが開催され、パネル展示を行いました。檜チャリティコンサートホールは、ユニセフを通じて世界の子どもたちに、安全な生活と教育の機会を与えることを目的としており、コンサートホールから得られる利益は全て日本ユニセフ協会に寄付されています。



ユニセフ支援チャリティコンサート「歌の祭典」

日時：2026年5月3日（日）
会場：横浜市南区公会堂
主催：歌の祭典実行委員会
後援：神奈川県ユニセフ協会
募金額：183,000円

横浜市内で複数の童謡の会、コーラスグループを主宰している赤岡綾子さんが中心となって、子どもの日にちなんで世界の子どもたちのために企画したチャリティーコンサートが開催され、当協会として後援を行いました。今回は、童謡の会・コーラスグループ8団体の皆さんにより昭和時代の懐かしい歌が披露され、最後は会場の皆さんも一緒に歌いました。当日、会場にてユニセフへの募金贈呈式も行われ、神奈川県ユニセフ協会より感謝状を贈呈しました。



ユニセフ写真展（3月～9月）

「ガーナ指定募金」などユニセフの支援内容をお知らせするパネル展を各地で開催しました。

開催期間	会場
3月28日（土）	地球市民かながわプラザ（あーすばらざ）
3月28日（土）	聖和学院中学校高等学校
4月10日（金）～24日（金）	川崎アゼリア地下街 新川通りB
6月7日（日）	宗教法人 吉祥院 檜チャリティコンサートホール
7月13日（月）～17日（金）	イオンモール大和 1F- ウォーターコート
9月7日（月）～17日（木）	男女共同参画横浜南フォーラム南太田
9月18日（金）～30日（水）	男女共同参画センター横浜（戸塚）
9月27日（日）	地球市民かながわプラザ（あーすばらざ）

ユニセフ学習支援活動（3月～9月）

世界の子どもたちの現状とユニセフの活動について、2,227名の方がユニセフ学習会を受講しました。

開催日	学校・団体名	人数	テーマ
3/2	横浜市立末吉中学校	355	紛争下の子どもたち
3/19	横浜サイエンスフロンティア高等学校	50	紛争下の子どもたち
4/28	横浜市立鶴見中学校	600	ユニセフ基礎学習、水と衛生、保健と栄養、紛争下の子どもたち、SDGsについて、ユニセフ募金について
5/29	相模原市立鹿島台小学校	115	「SDGsとは何か」「小学3年生にできること（実際にやっている実践など）」を紹介していただきたい
6/10	鶴見大学短期大学部保育科	72	ユニセフ基礎学習、紛争下の子どもたち、SDGsについて、その他
6/18	横浜市立本郷小学校	200	ユニセフ基礎学習 ユニセフ募金について
6/26	横浜市立本郷中学校	455	SDGsについて、ユニセフ備金について
6/29	カリタス幼稚園	61	ユニセフ基礎学習
6/29	横浜市立桜井小学校	123	ユニセフ募金について
7/6	生活協同組合ユーコープ かながわ県本部	80	ユニセフ基礎学習
7/14	生活協同組合うらが CO-OP	14	ユニセフ基礎学習、ユニセフ募金について
8/27	横浜市医師会 聖灯看護専門学校	87	水と衛生、保険と栄養、紛争下の子どもたち、SDGsについて
9/1	横浜市立小菅ヶ谷小学校 ワールドフレンドスマイル 委員会	15	水と衛生、保険と栄養、紛争下の子どもたち、ユニセフ募金について

青年の船の回「スキップ12」、桜井小学校、本郷小学校、本郷中学校、(株)大川印刷、生活協同組合うらがCO-CP

ガーナ指定募金

8,377,934 円

生活協同組合うらがCO-OP、生活協同組合ユーコープ、生活クラブ生活協同組合・神奈川

ガザ人道危機緊急募金

191,152 円

全日本海員生活協同組合

ミャンマー地震緊急募金

12,267 円

不動丸小学校5年4組

自然災害緊急募金

758,554 円

富士フィルム生活協同組合、全日本海員生活協同組合、生活協同組合うらがCO-OP

ベネズエラ地震

54,000 円

ウクライナ緊急募金

677,787 円

全日本海員生活協同組合、(公財)川崎市国際交流協会

支援ギフト

30,000 円

子安小学校

募金報告

さまざまな取り組みの結果、14,430,622円の募金をお寄せいただくことができました。(2026年1月から7月集計)
【ご協力企業・団体】順不同

ご協力
ありがとう
ございました

合計 14,430,622 円

一般募金

4,328,928 円

横浜ウイークリー(株)、生活協同組合ユーコープ、(一社)国際空手道連盟極真会館、ユニセフの会、全日本海員生活協同組合、(社福)進和学園しんわ本人自治会連合会、境木中学校生徒会、秦野市立本町公民館、西宮西中学校厚生委員会、ボーイスカウト横浜第30団、(宗)吉祥院檜チャリティコンサートホール、(株)函館自動車工業、(公財)川崎市国際交流協会、港南台第二小学校、公益財団法人青年海外協力協会、吉浜小学校、第12回



生活協同組合ユーコープ様

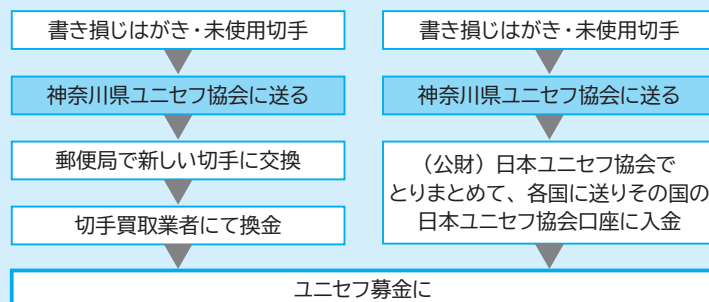


生活協同組合バルシステム神奈川様

眠らせていませんか？書き損じはがきや未使用切手・外国コイン

印刷に失敗したり書き損じた「はがき」、使わずに年が変わってしまった「年賀はがき」、金額が端数で使う機会のない未使用切手、海外旅行や出張からの帰国後手元に残ってしまった「外国コイン」などを神奈川県ユニセフ協会では収集しています。

募金にかえて世界の子どもたちの支援にご協力ください！



【注意事項】

- ・ 個人情報や記載内容を見られたくない方は、あらかじめ修正液やマジックで塗りつぶすなど、削除してお寄せください。
 - ・ 料金額印面が汚れたり破れているハガキは無効となりますのでご注意ください。
 - ・ 私製はがきは郵便局で交換できませんので、お預かりできません。
 - ・ 外国コインを郵便・宅配便等で送る場合は品名に「メタル」とご記入ください。
- ※お送りいただく際の送料はご負担をお願いいたします。

参加者募集！

第48回

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

1979年の国際児童年に始まった「ハンド・イン・ハンド募金」は、世界の子どもたちの幸せと明るい未来の実現を目指し、全国の市民が“手に手をとって”ボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。2026年も、世界各地で紛争や災害に苦しむ子どもたちへの共感と協力の輪を広げ、持続的な支援を推進します。

2026年のスローガン

「手から手へ、命を支える栄養を！」

【川崎会場】JR川崎駅東口

12/5(土) 13:00～15:00

【相模原会場】小田急相模大野駅周辺

12/12(土) 10:30～12:30

【平塚会場】JR平塚駅周辺

12/13(日) 10:00～12:00

【横浜会場】JR桜木町駅前広場

12/19(土) 13:00～15:00

世界の子どもたちのしあわせと明るい未来のために、一緒に募金を呼びかけてくださる方を募集します。

申し込みはこちら➡



●オンライン募金もできます！

#あつまれ神奈川2026ハンド イン ハンド

検索



12/31まで

- ・スマホやパソコンから簡単に募金ができます
- ・寄付控除の対象となります
- ・500円以上の募金が可能です

事務局だより

ユニセフ 国連児童基金 のイノチェンティ研究所が今年5月に公表した分析によると、日本は所得格差の指標で先進国43カ国中34位となっており、先進諸国の中では比較的格差が大きいとされています。所得層の上位20%の世帯所得は、下位20%の世帯の6.35倍です。また、子どもの貧困に関しては先進国中16位で、子どもの貧困率は16.7%となっています。こうしたことから、日本は先進諸国の中でも、子どもの間の経済格差が比較的大きい国の一つといえます。さらに、経済的に厳しい状況にある子どもは、そうでない子どもと比べて、死亡率や肥満率が高く、生活満足度が低い傾向にあります。加えて、自殺率が高い可能性があり、学力や社会的スキルも低いことがわかっています。

家庭の経済格差は、子ども自身の努力だけで解決できる問題ではありません。いじめや学力の差、そして将来への希望までもが経済状況に左右されることのないよう、子どもたちや若い世代への公平な成長を見守っていきたいと思います。(大見)

※イベントで閉所の場合もありますので、当協会にお越しの際は、お電話にて開所をご確認の上お越しくださいますようお願いいたします。



神奈川県ユニセフ協会

www.unicef-kanagawa.jp

TEL 045-334-8950

FAX 045-334-8951

E-MAIL info@unicef-kanagawa.jp

〒231-0063 横浜市中区花咲町2丁目 57 ミシナビル201号

JR / 横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町」駅から徒歩3分
行き方：野毛ちかみち（地下道）を通り、「南1番」を出て直進し「横浜にぎわい座」の手前を右折してすぐのビルです